

2020年2月25日

各位

株式会社リボミック
(コード番号：4591 東証マザーズ)

RBM-007 第 I / II a 相臨床試験に関する米国学会での登壇発表のお知らせ

このたび（米国現地時間2020年2月21日）、当社のRBM-007の第 I / II a相臨床試験（SUSHI 試験、対象疾患：滲出型加齢黄斑変性）の結果について、当社の学術顧問である Rajendra S. Apte博士（ワシントン大学医学部教授）が、米国サンディエゴ市で開催された米国黄斑学会・第43回年次集会において登壇発表しましたので、お知らせいたします。

講演題目：Results of the Phase I/II SUSHI Study of Intravitreal RBM-007 in Exudative Age-Related Macular Degeneration（滲出型加齢黄斑変性を対象とする RBM-007硝子体内投与の第 I / II 相臨床試験の結果）

Apte博士は眼科疾患におけるFGF2の研究を専門としており、RBM-007の非臨床試験およびSUSHI試験のデータを示しつつ、RBM-007によるFGF2の抑制が滲出型加齢黄斑変性の新規な治療アプローチになりうると紹介しました。

なお、スタンフォード大学医学部のQuan Dong Nguyen教授（当社学術顧問）も、米国時間2020年2月9日に米国マイアミ市で開催された学術集会“Angiogenesis 2020”において、SUSHI試験の結果を登壇発表し、安全性ならびに薬効を示唆する結果が確認されたことを紹介しています。

RBM-007について

線維芽細胞増殖因子2（FGF2）の機能を阻害するアプタマーで、加齢黄斑変性における血管新生と癒痕形成を同時に抑制する新規な薬理作用を有します。現在、SUSHI試験に引き続く、第 II 相臨床試験（TOFU試験）が行われております。

両試験の概要は、ClinicalTrials.gov からもご確認いただけます。

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT03633084>

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT04200248>

以上

【本件に関するお問い合わせ先：経営企画部 03-3440-3745】

本リリースに記載されている医療用医薬品(開発品を含む)の情報は、当該製品を宣伝・広告するものではなく、投資家への情報開示を目的とするものであり、その製品化を保証するものではありません。